

個人情報悪質なスパイウェアから守れ!

Spybot Search & Destroy

キヤノンシステムソリューションズ株式会社 <http://canon-sol.jp/product/sb/>

「Spybot Search & Destroy」(以下 Spybot)は、アイルランドの Safer Networking社が開発し、無償で配布しているスパイウェア検出・除去ソフトウェアだ。スパイウェアとは、パソコンから個人情報をこっそり外部に送信する悪質なソフトウェアのことだ。最近では市販のウイルス対策ソフトにもある程度のスパイウェア対策機能が組み込まれているが、Spybotは、ウイルス対策の機能はないものの、スパイウェア対策ツールとしてはもっとも強力なもの1つだと言われている。今回紹介するのは、その最新版1.3をキヤノンシステムソリューションズがパッケージ化して販売するものだ。

1万7千種類以上のスパイウェアに対応 初回検査時には驚くほど検出される

Spybotの定義ファイルには、8月時点で1万7000種類以上ものスパイウェア関連のデータが記述されている。Spybotはこれをもとにシステムに潜んでいる問題点を

を検出する。検出が終わったら次は除去だ。Spybotでは、一覧表示された問題点のうち、チェックしたものを除去するようになっている。

初めてシステムを検査すると、検出される問題点の多さに誰も驚かされるはずだ。しかし、多くの問題が見つかったからと言って、神経質になることはない。

製品化版Spybotには 日本語による迅速なサポートを期待

Spybotは、検出した問題点を、「スパイウェア」と、さまざまなアプリケーションを使用した際に残される「履歴データ」の2種類に分類し、それぞれを赤と緑の2色で色分け表示してくれる。除去が推奨されるのは、このうち赤色表示されるスパイウェアだ。緑表示の使用履歴自体は危険なものではなく、むしろアプリケーションの操作を簡単にしてくれる便利な機能だ。だが、スパイウェアやワームなどの攻撃に利用される可能性があり、また使用履歴そ

製品名	Spybot Search & Destroy
会社名	キヤノンシステムソリューションズ株式会社
価格	パッケージ版: 5,250円、ダウンロード版: 3,150円(ともに税込)
動作環境	OS: ウィンドウズ 98/98SE/Me/NT 4.0/2000 Pro/XP、ブラウザ: インターネットエクスプローラ 5.5(SP2以降)以上

のものは除去しても何ら支障がないので、気になるものは取り除いておこう。

スパイウェアと言っても、システムに侵入してIDやパスワードなどを盗み出す悪質なものから、アドウェアと呼ばれる広告目的の「合法的」なものまで、さまざま。検出された問題点を闇雲に除去するのではなく、自分のパソコンがどんな状態にあるのかを把握して対処できることが、Spybotを使うメリットだろう。

Spybotのソフト自体は Safer Networkingのウェブで無償で配布されており、基本的な機能は無償配布版とパッケージ版で変わりがない。このためパッケージ版には、定義ファイルの更新や操作性、日本語による迅速なサポートがされることを期待したい。(松本深志)



Spybot Search & Destroyの起動画面。スパイウェアを検出・除去するときは、画面左の「検索と除去」または中央の「検査の開始」をクリックする。除去した結果、問題が生じたときは、「リカバリー」で除去したファイルを復元できる。「更新」または「更新検索」は、定義ファイルが更新されているかを確認するときに使う。



スパイウェアの検出画面。検出された問題点は、内容によって赤または緑で色分け表示される。「選択項目を除去」をクリックすると、検出された問題点のうちチェックしたものが削除される。画面右下は選択した問題点の詳細説明で、ボタンのクリックで表示/非表示を切り替えることができる。



保護機能の設定画面。画面中央の「保護」をクリックすると保護機能がオンになり、インターネットエクスプローラなどのブラウザの実行中にスパイウェアのダウンロードをブロックできるようになる。ウィンドウズに常駐させてスパイウェアによるレジストリーの書き換えを防止する「TeaTimer」と呼ばれる機能も備えている。

他人には見られたくないデータを指紋認証でガード!

Victoria 120

サンコー有限公司  <http://www.thanko.jp/victoria.html>

会社と自宅の間でデータを持ち歩いたりするのに、外付け型のHDDケースは大変便利だ。しかし、仕事上の機密や多数の個人情報を取り扱う場合、紛失や盗難を考えると使いづらい。そんなときに重宝するのが、指紋認証機能を搭載した2.5インチHDDケース「Victoria 120」だ。パソコンに接続しても認証されない限りHDDの中身を読み取ることができないという製品である。

接続すると自動で認識ソフトが起動 指紋の登録は自動でカンタン

指紋認証を試すのは初めてだったが、操作は実に簡単だった。Victoria 120の電源を入れてUSBケーブルでPCと接続すると、内蔵フラッシュメモリに保存されている指紋認証プログラムが自動的に起動して、PCに認証画面が表示される。

すでに指紋データを登録してあれば、本体上面の指紋センサーに指を乗せると登録データと照合され、認証されるとハ

ードディスクが認識される。センサーに当てる指に力を入れすぎないのがコツだ。

初めてこの製品を使う場合は、まず指紋の登録作業が必要になる。登録の際にセンサーに数回程度指を触れることで、認識率の高いデータベースが作られるという。認証に成功すると、パソコンにHDDが認識されてアクセスが可能になり、認証に失敗した場合は、HDDがパソコンに認識されない。

データの持ち歩きに伴うリスクを 指紋認証と暗号化技術で減らす

指をケガするなどして指紋を照合できなくなった場合に備えて、通常のテキストによるパスワードの設定もできる。しかし、テキストのパスワードは指紋認証に比べて安全性で劣るため、本当にセキュリティを考えるならば複数の指や人間の指紋を登録するようにして、テキストパスワードを使わないほうが望ましい。

製品名	Victoria 120
会社名	サンコー有限公司
価格	HDD無しモデル: 17,800円、20GB HDD搭載モデル: 28,800円(ともに税込)
動作環境	OS: ウィンドウズ XP/Me/2000、CPU: Intel Pentium II 233MHz以上、メモリー: 64MB以上、USB 2.0/1.1
スペック	サイズ: 80x155x23mm、重量: 125g HDD無し)、対応ドライブ: 2.5インチ IDE HDD (最大80GBまで)

Victoria 120には暗号化チップが搭載され、HDDに保存されるデータはすべて暗号化されている。そのために仮にディスクがケースから取り出されても、簡単にデータを盗み見られる心配はない。

また、近日中にはVictoria 120の指紋認証センサーをウィンドウズへのログオンにも使えるようにするソフトも販売予定だという。

気軽に大容量のデータを持ち運べる便利な世の中になったが、紛失や盗難などのリスクが、ポータブル製品には伴う。とかくセキュリティが話題にのぼる昨今、Victoria 120は便利さと安全を両立させた「今」を象徴する製品だ。

(藪 暁彦)



センサーには、保護のために開閉式のカバーが取り付けられている。ハードディスクを取り付けるときは、裏蓋の4本のねじをはずしてケースを開ける。Victoria 120にはフラッシュメモリが内蔵され、ここに指紋認識プログラムや登録した指紋データが格納されている。



Victoria 120をPCと接続すると、認証プログラムが自動的に起動する。センサーに指紋を登録した指を当てると、センサーから取り込まれた指紋が画面左に表示されて指紋の照合が行われる。認証に失敗したときは、指を当てる位置や強さを変えてみるといい。



初めて指紋データを登録するときはいったん認証ウィンドウを閉じて、タスクトレイに表示されている手のアイコンを右クリックしてメニューから「パスワードの変更」を選ぶ。表示された登録画面の右にある指の絵のどれか1つをクリックしてセンサーに指を当てると登録される。

パソコンで録画したTV番組をリビングの大画面TVで楽しむ!

AVeL LinkPlayer

株式会社アイ・オー・データ機器 <http://www.iodata.jp/prod/multimedia/video/2004/avlp2/>

DVDドライブ搭載のネットワークメディアプレーヤーとして人気の高かったアイ・オー・データのAVeL LinkPlayerがモデルチェンジを行い、より進化して登場した。

新機種の紹介に入る前にAVeL LinkPlayerの基本的な製品コンセプトをおさらいしておこう。製品のデザインからもわかるように、機器そのものはパソコン周辺機器というよりデジタルAV家電という位置付けになる。したがって、テレビやオーディオといったAV機器のそばに設置して楽しむといった使い方が一般的であろう。

本機はネットワークメディアプレーヤーである。つまり、パソコンのHDDに保存したムービーやデジカメ写真、音楽ファイルをLAN経由でテレビの画面に表示できるという機能を持っている。たとえば、本製品をリビングに設置して、ネットワークで接続した別室のパソコンからファイルを取り出して、リビングの大画面テレビで楽しむことができる。

また、DVDドライブも搭載しているので、DVDやCDにデータとして保存した各種対応ファイルの再生をしたり、DVDプレーヤーとして使ったりもできる。

望みのWindows Media Video 9対応 WMV HDでハイビジョン映像も

「AVLP2/DVDG」では、旧機種からいくつか機能が追加され、スペックも向上している。まず、対応する動画フォーマットに要望の多かったWindows Media Video 9(WMV9)が追加された。従来からMPEG-1/2、DivX、XviDには対応していたため、これでパソコンで一般的に利用される動画形式に幅広く対応したことになる。

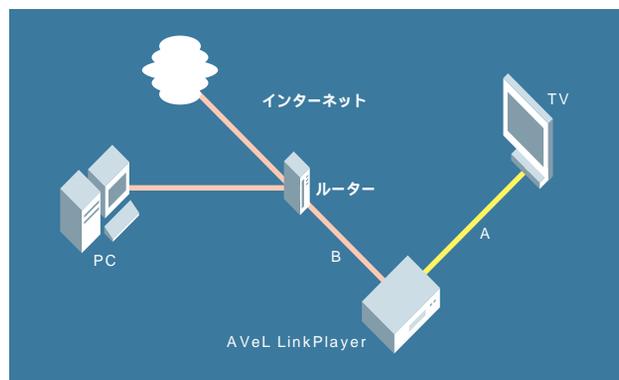
また、特筆すべきはWMV9の高画質モードに対応しており、HD(ハイビジョン)画質の映像クオリティを実現したWMV HD(最大1920×1080ドット)の映像再生が可能なことだ。720p(D4対応)の映像フォーマットに対応したD端子も搭載して

いるので、ハイビジョン対応のテレビがあれば、超高画質映像をその美しさのままで楽しむことができる。

そのほかに音声ファイルは、MP3、AAC、WMA、PCM、Ogg Vorbisの各ファイルを再生することができ、静止画像に関しては、JPEG、BMP、GIF、PNGに対応している。

無線LANにも対応してより便利に ただしスループットには注意

従来製品では、別売りのアダプターを購入することで無線LANに対応したが、今回の「AVLP2/DVDG」では、IEEE802.11b/g対応の無線LANを標準で搭載している。自宅でパソコンを置いている部屋と日常的にテレビを見る部屋が別々という家庭は多いだろうから、無線LANによって家の中にLANケーブルを引き回す必要をなくしたことで、AVeL LinkPlayerの本領が発揮される状況が増えるだろう。



テレビとLinkPlayerの接続(A)は、一般的なDVDプレーヤーなどと同じようにビデオ・音声入力端子で行う。パソコンとLinkPlayerの接続(B)は、無線LANか有線LANで行う。これによってパソコンで録画したTV番組や、インターネットからダウンロードしたコンテンツを、大画面TVで楽しめる。



本体外観は、ミラー仕上げされて完全にAV機器の雰囲気。一般的なパソコンの周辺機器とは一線を画す。IEEE802.11b/gの無線LANを標準で搭載。宅内LAN環境のない家でも本機を楽しむことができる。テレビ映像を再生するには、IEEE802.11gが望ましい。WEPにも対応する。

ただし、無線LANで利用する場合は、スループットに注意が必要だ。筆者宅のIEEE802.11b環境では、MP3などの音楽やデジカメ画像の再生には支障なかったものの、パソコンで録画したテレビ番組は、低画質モードで録画したにもかかわらず、音声、映像ともに途切れてしまって実用に堪えるものではなかった。無線LANでテレビから録画した動画を楽しむのであれば、より高速なIEEE802.11g環境での使用をおすすめする。

パソコンを専用ソフトでサーバー化 パソコン内の動画をメニューで表示

「AVLP2/DVDG」を実際に使ってみた。まず、付属のCD-ROMからパソコンに専用ソフト「AVeL Link Server」をインストールしておく。すると、リンクプレーヤーのメニューにウィンドウ上で指定したコンピュータ名(Mac OS Xの場合は「Macintosh」と表示)が表示されるようになる。コンピュータを選択すると、ウィンドウの場合は標準で「マイミュージック」「マイビデオ」「マイピクチャー」に収録されているファイルが階層メニューで表示される。このとき表示されるフォルダーは、パソコン側で変更できる。また、

写真のスライドショーで再生させるBGM、あるいは、音楽の連続再生時に表示させる写真のスライドショーの設定も可能で、このおかげで静止画や音楽だけでも十二分に楽しめる。

Mac OS Xでは、やはり「ムービー」「ピクチャ」「ミュージック」内のファイルが表示され、写真と音楽に関しては、「iPhoto」と「iTunes」のアルバムとプレイリストの設定もメニューとして現れる。

ただ、リモコンを使った操作感は、大手電機メーカー製のデジタルAV機器の洗練されたメニューに慣れていると、多少不満を感じる部分もある。

同社のキャプチャー製品を使えば HDDレコーダーのようにEPGで録画も

「AVLP2/DVDG」は、アイ・オー・データが販売しているテレビキャプチャー製品と同時に使用することで、接続したパソコンをHDDレコーダーのような使い方ができる。

対応するのは、USB接続タイプの「GV-MVP/RZ」かPCI接続タイプの「GV-MVP/RX」で、これらの製品をパソコンに取り付けて同社のウェブサイトで近日公開予定の「AVeL Link Advanced

製品名	AVeL LinkPlayer(アベル・リンクプレーヤー)
会社名	株式会社アイ・オー・データ機器
価格	33,075円(税込)
サイズ	430×291×55mm(幅×奥行き×高さ)
ビデオ端子	コンポジット×1、Sビデオ×2、D端子×1、DVI-I×1
音声端子	アナログ×2、光デジタル×1、同軸デジタル×1
対応OS	ウィンドウズ XP/2000 Pro/Me/98SE、MacOS X 10.3
ネットワーク	100Base-TX/10Base-Tポート×1、IEEE802.11b/g

Server」をインストールすると、リンクプレーヤーのメニューに電子番組表が追加され、パソコンによる録画を予約できるのだ。録画した番組は、やはり本機のメニューから再生して楽しめるので、まさにHDDレコーダー専用機と似たような使い方が可能だ。

このほかにも、本体正面にはUSB 2.0端子を装備しており、USB接続の外付けハードディスクをつないで、ドライブ内のファイルを直接再生することも可能だ。

旧機種から進化して機能満載で登場したAVeL LinkPlayerは、簡単にパソコンのコンテンツをテレビで楽しみたいというライトユーザーから、家電製品では不可能な超高画質な動画再生を楽しみたいというヘビーユーザーまで、幅広く楽しめる機種だろう。

(山崎潤一郎)



デジタル音声の出力端子も備えており、各フォーマットに対応しているので、別にAVアンプを用意すればサラウンド再生を楽しむことができる。無線LANだけでなく100Base-TXの有線LANも搭載しているので、高ビットレートの動画を安定して見るなら、こちらを使った方が無難だろう。



リモコンから必要な機能はひとつとおり操作できるが、使い勝手の面では大手家電メーカー製品と比較すると若干不満が残る。



リモコン操作で表示されるパソコンへの接続画面。専用ソフトがインストールされたパソコンを見つけると自動的にリストされる。画面のように複数台のパソコンをサーバー化することもできる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp